

# 2025 年度事業報告

## 1. 総括報告

2025 年度は、止まらぬ物価上昇、相次ぐ自然災害や異常気象、緊迫する国際情勢をはじめ、先行きの不透明感を払拭できない状況が続く一方、史上初めての女性首相の誕生や、日経平均株価の 5 万円越えなど、新しい時代への変化も予感させることとなった。

我が国の景気は緩やかに回復しているとされるものの、シャッター・ドアの出荷量は低調な動きが続いている。高止まりしていた鋼材価格は安定してきているが、先行指標となる建築着工は弱含みとなっており、また、着工、工期の遅れなども指摘されていて、今後の動向を注視していく必要がある。

このような状況の下、当協会では、会員各社と連携し、2025 年度事業計画に基づき、主に次のような事業を着実に実施した。

調査研究普及事業では、技術基準類の制定・改定、製品安全への取り組み、各種調査の実施など情報の収集・提供等を行った。

評定登録講習事業では、所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録並びにシャッター及びドアに係る人材育成等を行った。

ストック対策として、引き続き、重点的な広報活動を展開するとともに、防火設備検査員講習の実技講習を着実に実施した。また、定期検査報告制度の改正、施行に適切に対応した。

また、シャッター施工者の確保・育成等を図るため、シャッター施工職種の第 1 回技能検定試験を着実に実施し、併せて、建設キャリアアップシステム等の導入に向けた検討を進めた。

さらに、防災・減災に寄与する製品の普及を図るため、浸水防止用設備建具型の技術標準を策定するとともに、浸水防止用設備の普及のための広報活動を実施した。

これらをはじめ、当協会が 2025 年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

## 2. 調査研究普及事業

### (1) 技術基準類の策定

#### ①技術基準類の策定、改定

- ・浸水防止用設備建具型の技術標準を策定した。また、同パネル型の技術標準の策定に向け、各基準を検討した。
- ・重量シャッターの技術標準の改定に向け、各基準を検討した。
- ・窓シャッターの技術標準の改定に向け、各基準を検討した。
- ・高速シートシャッターの技術標準の改定に向け、各基準を検討した。

#### ②シャッター関連JISへの対応

- ・前年度策定した改定原案に基づき、オーバーヘッドドアJISの改定に向けた取り組みを進めた。

### (2) 製品安全への取り組み

#### ①事故情報の収集・分析、安全対策の検討

- ・事故情報の収集・分析を継続的に行うとともに、シャッター・ドア等安全対策検討委員会（委員長：河野守 東京理科大学教授）において、事故発生原因及び防止策について検討した。
- ・シャッターのユーザーや所有者向けに、塩害（腐食）に関する事例や注意点等を取りまとめ、ホームページに掲載した。

#### ②耐火クロススクリーンの設置に関する自主管理

- ・耐火クロス製防火／防煙スクリーンの設置に関する自主管理の確認（7社）を行った。

### (3) 維持管理における安全対策の推進

#### ①製品安全普及事業の推進

- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進めた。

#### ②防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格制度の推進

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施するとともに、同保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を実施した。

#### ③防火設備定期検査報告制度への対応

- ・防火設備定期検査報告制度に関連して、一般財団法人日本建築防災協会の委託を受け、防火設備検査員講習の実技講習を実施した。  
また、同協会の学科講習テキスト及びWEB講習用ビデオの改定に協力した。
- ・防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を実施した。

#### (4) 資料収集・普及事業

- ①シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査
  - ・2024年度調査の集計・分析を行い、過去10カ年のデータを会報で公表するとともに、2025年度調査を実施した。
- ②労働災害発生状況調査
  - ・2024年度労働災害発生状況調査をまとめ、会員に報告するとともに、2025年度調査を実施した。
  - ・労働災害発生防止スローガンとして「墜落・転落の防止」を前年度に引き続き掲げ、会員に対して労働災害発生防止の周知を図った。
- ③浸水防止用設備の普及
  - ・浸水防止用設備に関する広報資料を作成し、会員と連携してその普及に努めた。
- ④防犯製品に関する情報収集・提供
  - ・防犯5団体普及促進協議会に参加し、防犯製品に関する情報収集、意見交換を行うとともに、警察学校における情報提供、セキュリティショー2026、防犯防災総合展2025等への出展を行った。
- ⑤ホームページ、会報による情報提供
  - ・JSDA会報の7月号及び1月号を発行した。
  - ・ホームページ及びJSDA会報を活用し、事業報告、事業計画をはじめ当協会の活動の状況、業界に関連するトピックスなどの情報提供を行った。
- ⑥協会表彰
  - ・優秀工事従業者10名、協会委員貢献者3名及び技能検定制度化PTに対する協会表彰を行った。
- ⑦優秀施工者国土交通大臣顕彰、不動産・建設経済局長顕彰
  - ・2025年度優秀施工者国土交通大臣顕彰に協会関係者4名、同青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰に協会関係者2名を推薦し、顕彰された。
- ⑧スチールドア全国研修会の開催
  - ・一般社団法人日本サッシ協会との共催で、2025年度のスチールドア全国研修会をWEB開催した。
- ⑨シャッター施工に関するテキストの別冊の刊行
  - ・シャッター施工に関する総合的なテキスト「重量シャッターの施工の実務」の別冊を刊行した。

### 3. 評定登録講習事業

#### (1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ①遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法CASの使用承認
  - ・遮炎遮煙性能に関し、国土交通大臣より認定を受けた構造方法CASの使用承認を行っている。

CAS-0257：使用承認登録済 20 社

CAS-0258：使用承認登録済 13 社

- ・顧客ニーズの多様化等に対応するため、新たなCAS（CAS-1279）の大臣認定を取得し、協会会員が活用できるよう、仕様書の作成等を進めた。

## ②連動機構・装置等の自主評定

- ・一般社団法人日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と合同で、連動機構・装置等の自主評定を行った。

型式承認：0 件

型式更新：8 件（自動閉鎖装置 6 件、危害防止用連動中継器 2 件）

軽補正：2 件（危害防止用連動中継器 2 件）

認定累計：55 件（自動閉鎖装置 44 件、危害防止用連動中継器 11 件）

- ・連動機構・装置等自主評定委員会（委員長：奥村克夫 芝浦工業大学名誉教授）の開催：4 回

## ③防犯性能の高い建物部品の自主評定

- ・防犯性能の高いシャッター、ドア等の自主評定を行った。

型式承認更新：10 社 25 件（ドア B 種 8 件、窓シャッター 2 件、重量シャッター 8 件、軽量シャッター 3 件、スイッチボックス 4 件）

型式承認累計（販売終了品等を除く。）：129 件（ドア B 種 84 件、窓シャッター 9 件、重量シャッター 8 件、軽量シャッター 15 件、OHD 3 件、スイッチボックス 10 件）

- ・防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会（委員長：小出治 東京大学名誉教授）の開催：1 回

## (2) シャッター及びドアの保守点検に関する人材育成

### ①防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習の実施

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施した。

開催地 東京、大阪

開催日 8 月 19 日～8 月 26 日

受講者数 233 名

### ②防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の新規認定、資格更新

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を行った。

新規認定 162 名

資格更新 1,208 名（非更新者：366 名）

有効資格認定者 2026 年 3 月末 6,491 名

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定委員会（委員長：吉田倬郎 工学院大学名誉教授）の開催：1 回

### (3) 防火設備検査員に関わる講習の実施

#### ①防火設備検査員講習における実技講習の実施

- ・一般財団法人日本建築防災協会からの委託を受け、防火設備検査員講習の実技講習を実施した。

開催地 東京、大阪、福岡  
開催日 1月16日～2月27日  
受講者数 489名

#### ②防火設備検査員の実務能力向上のためのWEB講習の実施

- ・防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を随時受付で実施した。

### (4) 技能検定試験等の実施

#### ①技能検定試験の実施

- ・前年度に国家資格である技能検定制度にシャッター施工職種が追加されたことを受け、シャッター施工職種の第1回技能検定試験を実施した。

開催地 札幌、東京、大阪、福岡  
(学科試験)  
開催日 1級・2級 8月1日  
3級 7月11日  
受検者数 1級 297名  
2級 153名  
3級 616名 合計 1,066名  
(実技試験)  
開催日 1級・2級 9月30日～11月28日  
3級 7月11日  
受検者数 1級 159名  
2級 82名  
3級 616名 合計 857名

#### ②特例講習の実施

- ・技能検定に先行して実施した協会資格試験合格者を技能士に移行させるための特例講習を実施した。

開催地 東京、大阪  
開催日 6月18日  
受講者数 1級 17名  
2級 14名  
3級 135名 合計 166名

## 4. シャッター及びドアのストック対策の推進

- ・防火設備定期検査報告制度に関連し、防火設備検査員講習の実技講習を一般財団法人日本建築防災協会から受託し、3地区で実施した。また、防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を随時受付で実施した。
- ・定期検査報告制度の改正、施行に適切に対応した。
- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進めた。

## 5. 担い手の確保・育成

- ・前年度に国家資格である技能検定制度にシャッター施工職種が追加されたことを受け、シャッター施工職種の第1回技能検定試験を実施した。
- ・技能検定に先行して実施した協会資格試験合格者を技能士に移行させるための特例講習を実施した。
- ・シャッター施工に関する総合的なテキスト「重量シャッター施工の実務」の別冊を刊行した。
- ・技能士制度をベースに、建設キャリアアップシステム、登録基幹技能者制度の導入に向けた検討を進めた。

## 6. 防災・減災、防犯に寄与する製品の普及

- ・浸水防止用設備建具型の技術標準を策定した。また、同パネル型の技術標準策定に向け、各基準を検討した。
- ・浸水防止用設備に関するポスター、リーフレットを作成し、会員各社と連携して浸水防止用設備の普及のための取り組みを進めた。
- ・防犯製品の普及のための方策を検討した。

## 7. 会員サービスの取り組み

- ・第5回賛助会員の技術・製品に関する説明会を開催した。

## 8. 会議等の開催

### (1) 総会：1回

2025年度通常総会 2025年5月20日（火）

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「シンフォニー」

- ・2024年度事業報告、決算承認の件
- ・理事選任の件
- ・2025年度事業計画、収支予算の件
- ・2025年度協会表彰の件

- ・会員の状況の件

(2) 理事会：4回

2025年度第43回定例理事会 2025年4月25日(金)

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「トパーズ」

- ・2024年度事業報告、決算の件
- ・2025年度事業計画、収支予算の件
- ・理事選任の件
- ・技能検定の内部監査担当者の選任の件
- ・浸水防止用設備建具型技術標準の制定の件
- ・会員の入会の件
- ・通常総会開催の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件
- ・担い手の確保・育成に向けた取り組みの件
- ・2025年度協会表彰の件
- ・2025年度主要会議等開催計画の件

2025年度第44回定例理事会 2025年5月20日(水)

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「シンフォニー」

- ・常任理事選定の件

2025年度第45回定例理事会 2025年10月21日(火)

於：新大阪ワシントンホテルプラザ 「蘭」

- ・2025年度中間事業報告、中間決算の件
- ・担い手の確保・育成活動の件
- ・複合防火設備(CAS)の大臣認定の件

2025年度第46回定例理事会 2026年1月13日(火)

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「シンフォニー」

- ・担い手の確保・育成活動の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件
- ・浸水防止用設備の固定資産税の特例措置の延長の件

(3) 常任理事会：7回

(6月26日、7月17日、9月18日、11月20日、12月18日、2月18日、3月18日)

- ・理事会・総会事案

定例理事会開催の件(9月、11月、3月)

中間事業報告の件(9月)

2025年度事業報告、2026年度事業計画の件(2月、3月)

2026年度会費改定の件(12月)

- ・運営関係

2025年度委員会構成の件(6月)

担い手の確保・育成活動の件（6月、7月、9月、12月、3月）  
 元下請け実態調査の件（7月）  
 建築物のLCAの件（11月、12月）  
 防火設備定期検査報告制度の件（12月、3月）  
 標準労務費の件（12月）  
 防犯製品の普及活動の件（2月）  
 2026年度主要会議等開催計画の件（2月）

・その他

通常総会懇親会の件（6月）  
 優秀工事従業者表彰要領の改定の件（6月）  
 生産性向上に向けた取り組みの件（6月）  
 業務委員会への指示事項の件（6月）  
 安全の日ポスター&チラシの件（7月）  
 2024年度労働災害発生状況調査の件（7月）  
 浸水防止用設備出荷量調査の件（7月）  
 2024年度重大事故発生状況の件（9月）  
 浸水防止用設備税制特例延長要望の件（9月、11月）  
 複合防火設備（CAS）大臣認定の件（9月）  
 スチールドア全国研修会の件（9月、12月）  
 防火設備定期検査状況調査報告の件（11月）  
 防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習会開催の件（11月）  
 賛助会員の技術・製品に関する説明会の件（11月）  
 四日市市地下駐車場の止水板の件（11月）  
 優秀施工者国土交通大臣顕彰の件（11月、2月）  
 2026年度協会表彰の件（3月）

(4) 運営委員会：11回

(4月8日、5月13日、6月10日、7月8日、9月9日、10月14日、11月11日、12月9日、1月20日、2月10日、3月10日)

(5) 基準委員会：3回

(6月24日、11月7日、3月23日)

(6) 常設委員会

業務委員会	10回	工事委員会	10回
講習委員会	10回	メンテナンス委員会	9回
連動機構等自主評定専門委員会	4回	品質・安全委員会	11回
管理調整委員会	7回	シャッター技術委員会	11回
耐火クロス技術委員会	10回	OHD技術委員会	11回
高速シート技術委員会	11回	窓シャッター技術委員会	8回
ドア技術委員会	12回	企画広報委員会	11回
浸水防止用設備委員会	11回	防火設備委員会	6回

担い手の確保・育成PT 11回

(7) 第三者委員会

防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定委員会 (委員長：吉田倬郎 工学院大学名誉教授)	1回
連動機構・装置等自主評定委員会 (委員長：奥村克夫 芝浦工業大学名誉教授)	4回
シャッター・ドア等安全対策検討委員会 (委員長：河野 守 東京理科大学教授)	1回
防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会 (委員長：小出 治 東京大学名誉教授)	1回
シャッター施工職種技能検定委員会 (委員長：河野 守 東京理科大学教授)	4回

9. 会員の状況

会員種別	2025年度末				2024年度末
	入会	退会	会員数	増減	会員数
第一種会員	0	0	14	±0	14
第二種会員	0	5	83	-5	88
準会員	1	0	25	+1	24
賛助会員	0	1	40	-1	41
合計	1	6	162	-5	167

2025年度の入会、退会状況

(入会)

準会員 : 有限会社勇翔シャッター

(退会)

第二種会員 : 井上鐵工株式会社  
美馬シャッター株式会社  
旭金属工業株式会社  
株式会社TANIGAWA  
小松電器産業株式会社

賛助会員 : サンコースプリング株式会社